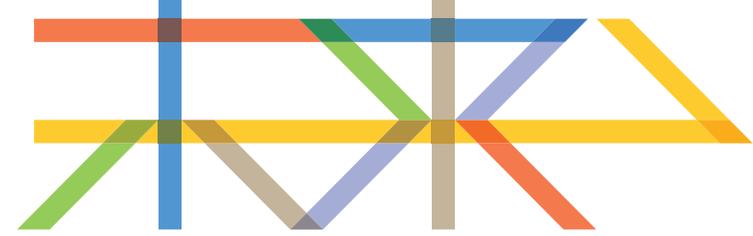


# 02 私たちの 立てた問い

ここまでの「センシング」「探究」「統合」「現場」の活動を通じて、  
私たちには多くの皆さんと一緒に考え、  
ともにアクションを創りたい一つの「問い」が生まれました。





## 【問い】

# 人や組織や社会の可能性が 最大限、花開く 人一生の育ちとは何か？

我々は皆、一生の中で多くのことを学び、育っていきます。みなさんが関心のある学びや育ちとは、どのステージのことですか？そして、そのステージでもし一人ひとりがつ、違う個性や才能の可能性が存分に開花しているとしたら、それはどのような状態で、そこではどのような言葉が聞こえてきますか？

少しイメージしてみましょう。

もし誰かといっしょにこのレポートを読んでいるのなら、少しお話をしてみてください。



## 1. 人の育ちの可能性

20世紀型の社会システムや教育にとらわれず、  
純粋に、人の育ちの可能性が花開いた状態を  
知りたい。それを多くの人と共有したい。

## 2. 統合的な視点

幼保期から成人期にいたるまで  
人一生の育ちを統合的な視点で捉えてみたい

## 3. 指針となる地図

幸せな自分、組織、日本、世界であるために、  
未来をつくる子どもたちや、今を生きる大人の育ちや、  
働き方、生き方の指針になるような地図をつくりたい

私たちが何故、このような問いを立てたのか。

その理由は、3つあります。

1つ目は、20世紀の社会システムや教育にとらわれず、  
純粋に人の育ちの可能性が最大化された状態を描いてみることで、教育と社会、組織の  
関係に、新しい発想が生まれるのではないかと考えたからです。

そもそも、私たちは、人本来の育ちの可能性を知っているのでしょうか？私たちは、  
すぐに教育の問題や解決の”手段”について議論してしまいがちです。しかし実は、  
人の育ちにはもっと、私たちが知らないような可能性があるのかもしれない。

それを考えたい、わかりたい、多くの人と議論したい。

そのように考えたのです。

2つ目には、人一生の時間軸での育ちを、もっと統合的な視点で捉えてみるこ  
とが大切なのは、と考えたからです。

生まれて保育園や幼稚園で育ち、小学校、中学、高校、大学などで学び、社会人として  
働くという流れの中で、今は、もしかするとある種の分断がある状態で、人が育っ  
ているかも知れません。自分自身の育ちの立場としても、支援者としての立場とし  
ても、より統合的な人一生の育ちの視点というものが必要ではないでしょうか。

3つ目には、未来を創る子どもたちや、今を生きる大人たちの、育ちや学びや  
働き方、生き方への指針になるような「地図」を創れるのではないかと思えたから  
です。そしてその「地図」は、自分や、家族や、社会を、誰も取り残すことなく、  
同時に幸せにするのではないかと考えたのです。